

横浜市立緑園東小学校 平成27年度 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の状態

(1)

- ① 学力の高低に関わらず、自尊感情や学習意欲が高くない児童がいる。
- ② 教育に対する家庭の意識が高く、帰宅後も習い事や学習塾に通う児童が多い。
- ③ 中学受験志向が強く、約半数の児童が私学受験をしている。

(2)

- ① 学力向上部会が主導で、横浜市学力学習状況調査の分析をし、それを基に課題の把握と対策を立てている。年間を通じた授業発表やメンターチームでの研究が活発に行われている。
- ② 主体的に考えを深める子の育成をめざして、あらゆる学力層に応じた指導の手立てを考えている。

(3)

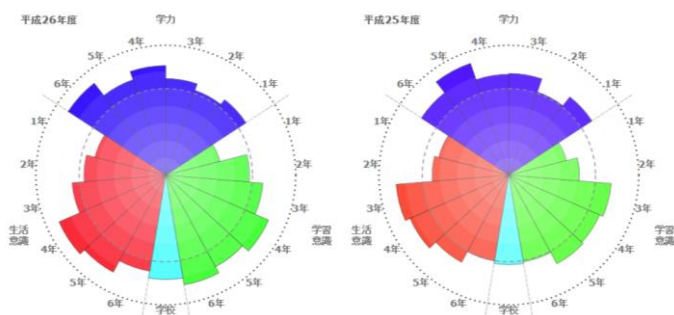
- ① 地域の方々と児童のつながりを大事にし年間を通じて直接本校の学習活動にかかわってもらっている。
- ③ 特別支援教室の設置、TT指導、習熟度別授業、交換授業、少人数指導、学生サポーター、非常勤講師など学年、学級の実態に応じて多様な指導体制を組んで、きめ細かな指導に当たっている。

2 今年度の方向(中期学校経営方針)

学力向上に関する指導の目標・方針（平成27年度末の姿）

- 個に応じた、あらゆる学力層に対応できる授業や児童の学習に対する思い大切にし、意欲を喚起できるような授業の展開をする。
- 思考力育成の研究を重ね、子どもに思考力がついてきている。
- 子どもがPDCAサイクルを循環させることでメタ認知力を高め、自らめあてを立てて学べるようになっている。
- 市学力学習状況調査の結果が向上している。

3 横浜市学力学習状況調査等からの平成27年度の実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

学校全体では、4教科とも横浜市の平均的な学力よりも上回っている。ほぼどの学年でも、全ての教科で学力層Aの児童が3割を超える。その一方で、学力層Dの児童も2割ほどいて、学力差がもともと大きいと言える。学年によりばらつきがあるものの、活用の力が伸びてきている。単元を貫く言語活動を行っている成果と言える。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：読む力はついてきているが、言葉の力についての理解は課題である。
- 算数科：考える力はついてきているが、知識・理解の向上が課題である。
- 社会科：知識理解はできているが、技能については課題である。
- 理科：学年ごとにはばらつきはあるが、概ね良い傾向にある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査含む）

学校全体で、4教科とも横浜市の平均的な学力よりも上である。また、昨年度の学力と比較すると、全体的に活用の力が伸びている。国語科においてはA層が変わらず、D層が減ってきている。社会科においては全層において前年とほとんど変化が見られなかった。算数においても、全層においてほとんど変化が見られなかった。理科においては、A・C層が増え、B・D層が減っている。全体的にB層とD層が減少し、C層が増加傾向にある。これは、D層に焦点を当てた手だてが効果的に働いたからだと思われる。反面、B層だった児童がC層になったことが課題である。

学習意識は、昨年度と比べると高くなってきている。これらは、児童の意欲を喚起した学習展開や子どもの主体的な学習を継続的に行ってきた結果だと考えられる。生活意識では、低学年で低く中学年で高くなり、高学年でやや下がるという傾向があるが、低学年では、学校生活が楽しいという実感がまだ希薄であり、高学年では日常生活の多忙感によるものであろう。ただし、全体的に前年度よりも向上している。

以前は学力層Aでも自尊感情が低い傾向があったが、H26年度調査では学力層の分布と自尊感情の分布が同じような形に推移してきている。これらは、個に応じた指導が効果的に働いたからだと思われる。

4 平成27度 目標と具体的方策

平成27度 目標

**自分の思いをもち互いの思いを認め合いながら、主体的に考えを深める子の育成
～個に応じた 問題解決学習の在り方～**

(1) 学校組織としての共通の取り組み

○学校図書館活用と学校司書連携をします

各教科での資料活用型授業の工夫、並行読書のさらなる充実等、学力の基盤となる読書活動、主体的な学習を推進する「自ら調べる活動」の充実を図ります。

○めあて学習を行います

子ども自身によるPDCAサイクルを意識した学習を進め、学習の見通しと自身の学習状況をしっかりとつかめるように「自己評価力」を育成します。

○協働による学び合いをします

子ども司会、学習集団の多様化等、全教科における説明的活動やグループ話し合い活動による「思考活動」の深化・拡充を図ります。

○知識を活用し、さらに探究する学習にします

各教科における発展的学習やボランティア・地域施設との連携等、キャリア教育や地域参画活動と体験学習の充実を図り、「横浜の時間」の構築とカリキュラム化を行います。

○姉妹校交流の一層の充実を図ります

オーストラリア MPW 小学校との交流を充実し、コミュニケーション能力や外国への関心・意欲を高めます。

○個に応じた指導の充実を図ります

学習のユニバーサルデザイン化、学習習慣、マナーの確立、基礎・基本の確実な習得、補充・発展の工夫、指導と評価の一体化

(2) 学年として特に意識する内容

全学年に共通の内容

○各教科において、思考ツールを用いたり学習形態を工夫したりしながら、「アクティブラーニング」を実践していく

1 学年

- 国語科では、想像を広げながら自分の思いを伝え合うようにする。主語・述語の簡単な文を作って楽しむようにする。
- 算数科では、具体物を用いた活動を通し、数・量の大きさ、図形についての感覚を豊かにする。

2 学年

- 国語科では、身近なことなどを話して伝えたり、相手を意識した文を書いたりする機会を多くもち、伝え合う楽しさや書き表す喜びを味わえるようにする。
- 算数科では、個人差に応じた支援を実施する。また、具体物を用いた活動を通し、数・量の大きさ、図形についての感覚を豊かにする。

3 学年

- 横浜市の平均的な学力に到達できるようにする。
- 国語科では、文章を書く活動を意識しながら、言葉の領域、語彙や作文指導の充実を図る。
- 算数科において、個に応じた指導や、きめ細かな指導を行う。また、具体物を用いながら、測定や図形分野の学習内容の定着を図る。

4 学年

- 自分の思いや考えを存分に表現したり、人の意見と比較したりして活発な話し合い活動ができるようにする。
- 国語科、社会科を中心に図書館を活用し、関連する本を読んだり調べたりして主体的に学習をすすめるようにする。
- 算数科では、少人数指導を実施し、きめ細かな指導を行う。また、数直線を使って理解する力を高める。

5 学年

- 理科では、理科支援員と協力し、実験や観察の時間を大切にしながら体験を伴った学びにしていく。
- 算数では、習熟度別の授業を行い、きめ細やかで自分に合う学習進度で学べるようにする。
- 社会では、調べ学習を多く取り入れ、自分が興味をもったことを追及していけるようにする。

6 学年

- 国語科、社会科を中心に学校図書館を活用し、並行読書や調べ学習に取り組むことを通して主体的な学びをすすめるようにする。
- 算数科で習熟度別授業を行ったり、理科で理科支援員と協力したりしながら、個に応じた学びを保証するようにする。

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設けるようにする。
- 自分の考えや思いを明確にしてグループでの話し合いをホワイトボードに書くなど、思考過程を明確にする学習を意図的に設ける。